（様式８）

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博　士　（　学術　）	氏名	RANJAN SAHA PARTHA
学位授与の要件	学位規則第４条第①・２項該当		

論　文　題　目

Practicing Peace in the Indigenous Context: A Study on Three Villages of the Chittagong Hill Tracts (CHT) in Bangladesh

論文審査担当者

主　　査	外川昌彦	広島大学大学院国際協力研究科・准教授	印
審査委員	関恒樹	広島大学大学院国際協力研究科・准教授	
審査委員	吉田修	広島大学大学院国際協力研究科・教授	
審査委員	片柳真理	広島大学大学院国際協力研究科・教授	
審査委員	中谷哲弥	奈良県立大学・教授	

〔論文審査の要旨〕

本論文は、バングラデシュの丘陵地帯（CHT）における政府と先住民族との長年にわたる紛争を３つの調査村の事例研究を通して検証し、紛争の要因と和平協定が締結されたにも関わらず紛争が解決しない現状を分析し、地域住民の視点を通して紛争の解決に向けた道筋を明らかにしようとするものである。本論文の構成は、以下の通りである。

第一章は序論であり、近年の平和・紛争研究の理論的研究を概観し、全体論的アプローチを用いる本研究の分析視角を検証する。第二章は、丘陵地帯の先住民族問題に関わる紛争研究を概観し、紛争の歴史的な背景を検証する。第三章は、本論文の資料や調査手法、調査事例の背景などを整理する。第四章は、紛争の歴史的背景を、植民地時代、パキスタン時代、バングラデシュ独立後の３つに区分し、地域紛争の背景を検証する。第五章は、政府による同化政策や入植政策、軍の展開を検証する。第六章は、1997 年の和平協定の実効性と市民社会の役割を検証する。第七章は、紛争に関わる政府、政党、地域自治組織、先住民族団体、難民などの多様な利害関係者の対立が地域紛争の解決を妨げている状況を検証する。第八章は、ベンガル人入植者と先住民族との対立の構図を地域社会の事例分析を通して分析し、紛争の要因が日常的な相互交渉の中で生み出されてゆく過程を検証する。最後に第九章で、以上の議論が総括される。

質疑応答では、地域紛争の背景としての 1971 年の独立戦争、慣習法と近代法との関係、先住民の文化的多様性と政治課題としてのナショナリズムとの関係、紛争要因の解明における全体論的アプローチの有効性、国連などの国際社会による紛争解決への寄与、Tirbe などの先住民の概念区分について、インフォーマントなどの出典の引用方法についてなど、多岐に渡る質問がなされた。

これらの質問に対して、候補者からは適切な応答がなされ、最終提出に向けた論文作成の中で対応されることが確認された。また、本論文が提示する分析視角や資料的な意義、その独自性が評価され、バングラデシュの文化人類学的研究や世界の地域紛争研究に与えるその示唆は、学位論文の成果に相応しいものとして判断された。

以上の審査を経ることによって、審査委員会では全員一致で、本論文を、博士（学術）の学位を授与されるに値するものと判定した。